

珊瑚礁内海域における藻場造成研究報告書 (ホンダワラ類)

当眞 武、上原 孝喜、伊野波 盛仁
まえがき

本研究は昭和50年度から継続実施しているもので、珊瑚礁浅海域の主要な根付資源であるシラヒゲウニを増殖するために、恩納村屋嘉田潟原漁場を中心として、漁場環境や藻場の調査・試験を行ない、漁場の性状や藻場について基礎的知見を得ることができた。アジモ場の造成については、土木的に生育基盤面を安定化することによって、消極的ではあるが、アジモ場の自然形成を促進するという一つの方策を提示することができた。アジモ類の根茎の生長が遅いこと等の理由によって生物的手法の実用化はかなり困難であるので、本年度はアジモはとり上げず、ホンダワラ藻場のみについて造成研究を行なった。

藻場一般の形成・定着の阻害要因として、底生動物や魚類の食害があり、その影響が大きいことが明らかにされてきている。昨年度の本研究でも、漂砂による幼芽の消失がみられたが、大部分は食害によるものと推定された。

そこで本年度は食害の実態を明らかにし、食害防止の方法及び漂砂の影響防止についての試験を行ったので報告する。

報告に先だち、試験に終始ご協力いただいた恩納村役場、沖縄市役所、恩納村漁業協同組合、沖縄市漁業協同組合関係各位、東海大学学生仲村昌兼氏の方々に厚く御礼申しあげる。

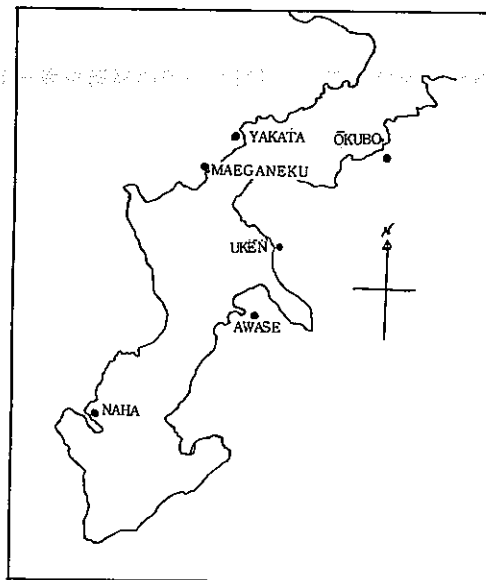


図-1. 母藻採取場所と実験漁場の位置